



オール東京62市区町村共同事業  
「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

## 2019年度 市民協働型温暖化対策実行計画推進研究 報告書(概要版)

### ◇ 事業趣旨 ◇

オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」は、東京で暮らす私たちにとって大きな課題である温室効果ガスの削減やみどりの保全について、東京都内の全 62 市区町村が連携・共同して取り組む事業です。平成 19 年 10 月に発表した「みどり東京・温暖化防止プロジェクト共同宣言」に掲げる 3 つの共同行動方針に基づき、活動しています。

#### オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」共同行動方針

CO<sub>2</sub> 削減につながる活動の普及・省エネルギーの促進・温室効果ガスの排出抑制

みどりの保全と地球温暖化防止対策を推進するための連携体制構築

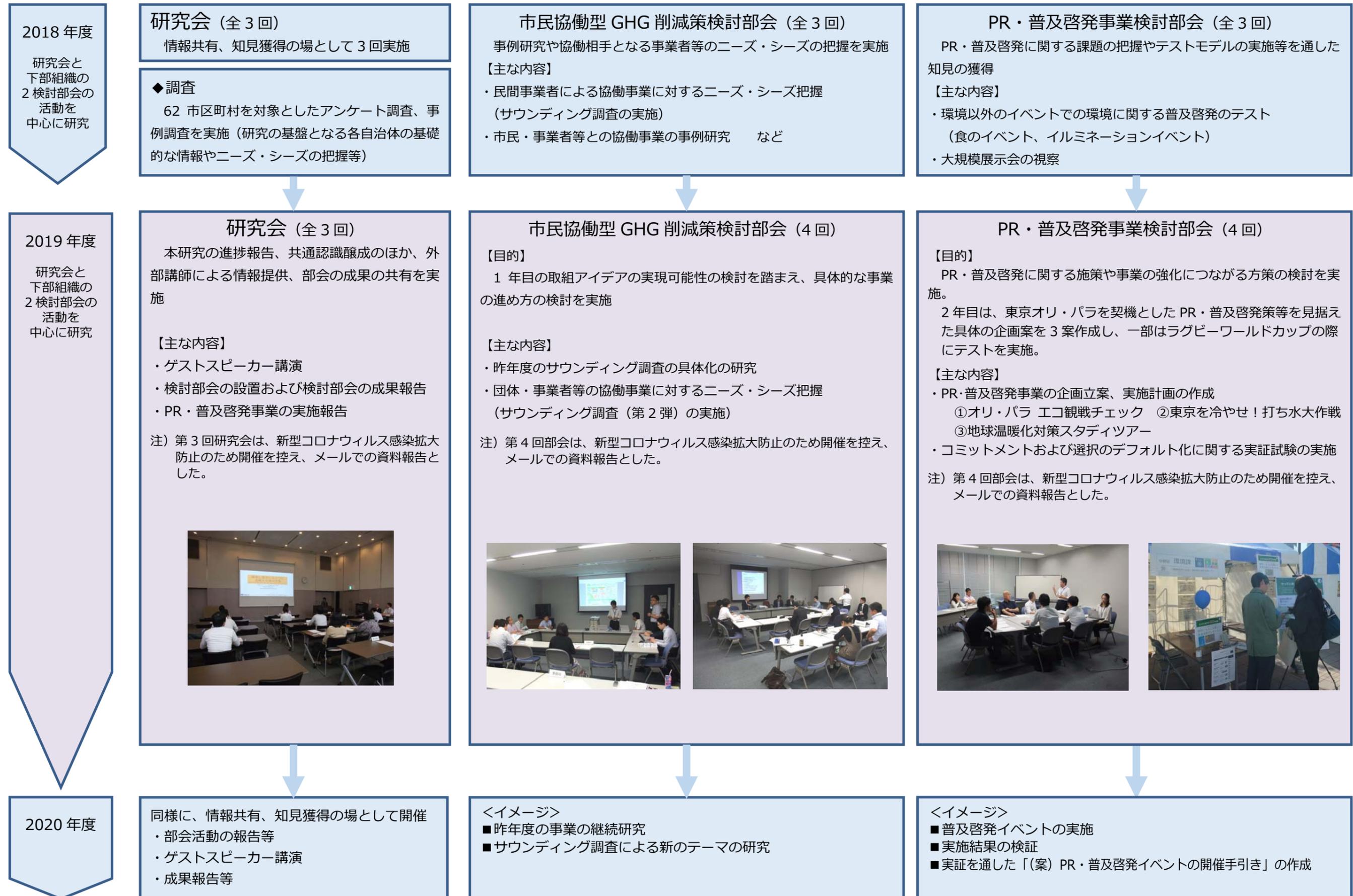
人々が、環境を考え、行動できる場の設定

#### 市民協働型温暖化対策実行計画推進研究

東京 62 市区町村の温室効果ガス削減目標の達成に資する市民・市民団体や事業者との連携による実効的な温暖化対策や PR・普及啓発手法等の研究により、各自治体の削減目標の達成への寄与を図ります。

2020(令和 2)年 3 月

## 研究会の実施概要



## ■ 検討部会

### ◆ 市民協働型GHG削減策検討部会

#### (1) 研究テーマ

昨年度に挙げられた4提案のうち、3事業を今年度の研究対象としました。

提案者名	事業名称	事業内容	備考
NECキャピタルソリューション株式会社	エネルギー地産地消及び地域の災害対策に向けた小中学校へのPPAモデル(太陽光無償設置スキーム)	・研究会にて事例発表 ・検討部会にて個別研究実施	関心度が高く、具体的な検討を求める意見が多く寄せられた。
奄美ソーシャルビジネスオフィス合同会社	東京都市区町村と大島紬産業が協働した衣服の在り方の見直しによる温暖化対策事業	—	関心度は高いものの、特定の自治体・地域との協働については慎重な意見が多く寄せられた。
東芝エネルギーシステムズ株式会社	二酸化炭素を排出しない究極のクリーンエネルギーシステムH <sub>2</sub> Oneの導入	・研究会にて事例発表	関心度が高く、情報提供を望む意見が多く寄せられたが、予算化が課題であった。
パナソニック株式会社 ライフソリューションズ社	62市区町村の共通フォーマット化を目指したP・TEMの基本機能の拡張可能性検討	・研究会にて事例発表 ・検討部会にて個別研究実施	関心度が高く、具体的な検討を求める意見が多く寄せられた。

#### テーマ1 PPAモデルを活用した太陽光発電導入拡大の可能性に関する研究

##### 1) 実施概要

PPAモデル<sup>※</sup>は、自家消費型の太陽光発電を初期投資と維持管理不要で導入できる、固定買取価格制度に依存しない新たな取組です。自治体が率先して取り組むことで波及効果も期待できることから、提案事業者（NEC キャピタルソリューション株式会社）との協働により、実際の公共施設をモデルとして実施可能性を検討しました。

※PPAとは、太陽光発電事業者が顧客の屋根や敷地に発電設備を設置し、この設備から顧客に電力供給を行う契約方式。

##### 2) 導入可能性の概略

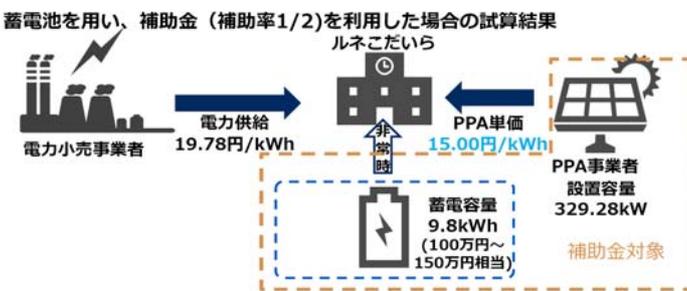
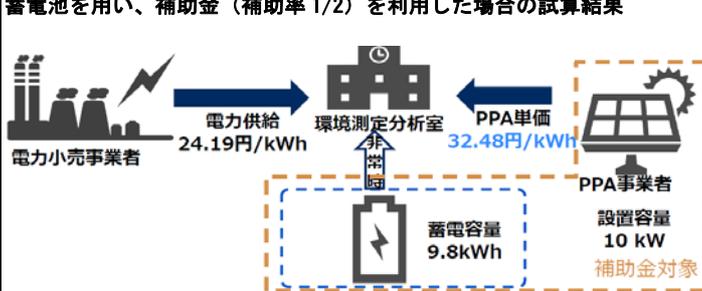
参加自治体から提供した10施設を対象に、概略検討を行いました。

番号	市区町村名	施設名	建設年(年)	設置面積(m <sup>2</sup> )	屋根形状
1	調布市	文化会館たづくり西館	1995	294	陸屋根
2	調布市	公衆トイレ	2018	15	陸屋根
3	多摩市	図書館	2022	1,500程度	不明
4	多摩市	和田・東寺方コミュニティセンター	2015	120	折板屋根
5	江戸川区	環境測定分析室	1985	300	陸屋根
6	小平市	ルネこだいら	1993	1,700	陸屋根
7	小平市	小平市第六小学校	1997	500	折板屋根
8	町田市	まちだ市民ホール	1978	600	陸屋根
9	町田市	小山市民センター	1996	423	折板屋根
10	町田市	子どもセンターまあち	2016	650	陸屋根

その結果、PPA事業において経済性が成立しやすい基本的な適用条件(下表)が把握されました。

項目	基本的な適用条件(経済性が成立しやすい条件)
築年数	10年以内が望ましい
従量料金単価	旧一般電気事業者の通常プランと同一単価以上が望ましい
設置可能面積	2,000m <sup>2</sup> 以上が望ましい
休業日	365日利用されている施設が望ましい
屋根形状	折板屋根が望ましい

### 3) モデル施設の検討

<p>「ルネこだいら」(太陽光発電: 329.28kW) では、現状の電力料金より下がる可能性が確認され、補助金*を活用することでさらに事業性が向上することを確認できました。</p> <p>* 補助金は環境省「地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」を想定。</p>	<p>「環境測定分析室」(太陽光発電: 10kW) では、2 施設以上をまとめて実施し、かつ補助金*を活用することで PPA 単価の低減が図られ、現状の電力単価よりは高いものの、維持管理費や蓄電池の導入費を含んでいることや将来の電気料金値上がりリスクを加味すると、実施の可能性が確認できました。</p>
<p>蓄電池を用い、補助金(補助率1/2)を利用した場合の試算結果</p> 	<p>蓄電池を用い、補助金(補助率1/2)を利用した場合の試算結果</p> 

### 4) まとめ

- 自家消費型の太陽光発電の導入を加速させる上で、有効な事業スキームであることが確認されました。
- 太陽光発電の設置規模が小さい場合でも、補助金の活用や複数施設をまとめるなどの工夫により経済性の向上が図られ、CO<sub>2</sub>削減や維持管理の負担軽減などを加味すると、実施の可能性が見出されました。
- 今回は 20 年契約としたが、さらに長期の契約とすることでコストダウンが見込まれました。

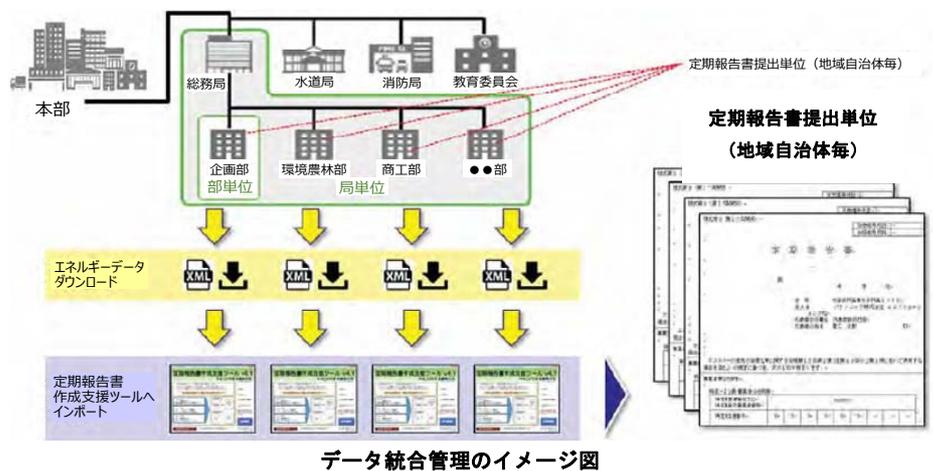
## テーマ2 公共施設のエネルギーデータ等の効率的な集計・管理と有効活用に関する研究

### 1) 実施概要

事務事業編や各種法令(省エネ法、東京都環境確保条例等)では、それぞれ対象施設や項目が微妙に異なるため、自治体職員の負担となっています。各自治体における負荷軽減やデータの確実性の確保につなげるため、公共施設のエネルギーデータの効率的な集計・管理の手法を研究しました。

### 2) エネルギーデータの統合管理の必要性に関する整理

自治体の意見交換や、代表施設での電力使用量の詳細分析により、データの統一管理の必要性を確認しました。



### 3) 研究結果

パナソニック株式会社ライフソリューションズ社との協働により、検討部会の参加自治体の意見を踏まえ、同社ツール(P-TEM)を都内の市区町村向けのカスタマイズを行いました。

コメント入力機能	施設毎に省エネ活動の記録を入力可能、CSV形式で入力済みコメントが出力可能
施設絞り込み機能	“エネルギーを多く使っている施設”等の多くの施設から抽出できる
自由入力項目の拡充	自治体にて独自管理されている項目に対応できるように自由入力項目を拡充

### 4) まとめ

クラウド上におけるデータの統合管理システムを活用することで、作業の効率化のみならず、データの見える化や省エネのノウハウの共有にもつながり、現場職員への取組意識の浸透や優良事例の水平展開などの可能性も確認されました。

## (2) サウンディング調査

### 1) 目的

事業者等との協働による地球温暖化対策を検討する上で、そのニーズとシーズを幅広く把握することを目的として、民間提案を求める調査を実施しました。

### 2) 内容

オール東京 62 のホームページ上で、募集提案の公募を実施しました。より多くの応募を得られるよう、東京ボランティア・市民活動センター（窓口への応募書類等の設置）や関東経済産業局（メールマガジンでの紹介）、各自治体のご協力を頂き、周知に努めました。

東京都市区町村との協働による地球温暖化対策事業に関するサウンディング調査 － 実施概要 －											
<b>1.調査の概要</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 東京都内の温室効果ガス排出量の削減につながる、自治体との協働事業を募集した。</li><li>● 提案者自身が実施主体の一部を担うことを募集要件とした。</li><li>● 法人（NPO 法人を含む）又は法人のグループを対象とし、組織規模、実績、業種等は不問とした。</li><li>● 提案内容は、アイデアレベルや構想段階など、検討の熟度は不問とした。</li></ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>&lt;協働事業の一例&gt;</b><ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民等に対する地球温暖化対策への取組を促す普及啓発に関する協働事業（イベントなど）</li><li>・ 地域内の再生可能エネルギーを増やすための協働事業（地域資源を活用した地産地消型事業など）</li><li>・ 地域単位でエネルギーを効率よく使うための協働事業（エネルギーマネジメント事業など）</li><li>・ 地球温暖化対策に関する学習や教育に関わる協働事業（自社施設を活用した事業、講師派遣など）</li><li>・ 地域の地球温暖化の取組を国内外に発信するための協働事業（エコツアーなど）</li><li>・ 公共施設等を活用した地球温暖化対策に資する協働事業（水平展開が見込める実証事業など）</li><li>・ その他（web アンケートや SNS 等を活用した事業など）</li></ul></div>											
<b>2.提案の方法</b> <p>「ECO ネット東京 62」のホームページ内の「市民協働型温暖化対策実行計画推進研究会」（<a href="http://all62.jp/kyodo/index.html">http://all62.jp/kyodo/index.html</a>）において公募。実施要領および様式をダウンロード頂き、必要事項を記入のうえ、メール、郵送、持参のいずれかにより提出。</p>											
<b>3.実施スケジュール（募集当初の予定）</b> <table border="1"><tbody><tr><td>実施要領の公表・提案書の受付開始</td><td>令和2年2月7日</td></tr><tr><td>質問の受付</td><td>令和2年2月7日～令和2年3月6日</td></tr><tr><td>提案書の提出期限</td><td>令和2年3月6日</td></tr><tr><td>提案者との意見交換の実施</td><td>令和2年3月中旬を予定</td></tr><tr><td>実施結果概要の公表</td><td>令和2年3月下旬を予定</td></tr></tbody></table>		実施要領の公表・提案書の受付開始	令和2年2月7日	質問の受付	令和2年2月7日～令和2年3月6日	提案書の提出期限	令和2年3月6日	提案者との意見交換の実施	令和2年3月中旬を予定	実施結果概要の公表	令和2年3月下旬を予定
実施要領の公表・提案書の受付開始	令和2年2月7日										
質問の受付	令和2年2月7日～令和2年3月6日										
提案書の提出期限	令和2年3月6日										
提案者との意見交換の実施	令和2年3月中旬を予定										
実施結果概要の公表	令和2年3月下旬を予定										

### 3) 結果

サウンディング調査を実施した結果、2社から提案がありました。

今後、提案内容に対する 62 市区町村の意向等を踏まえながら、研究内容の参考とさせて頂くとともに、実現可能性が高いご提案については、具体化に向けた検討等を進める予定です。

提案者名	事業名称
東芝テック（株式会社）	オフィスの印刷用紙の使用量削減
認定NPO太陽光発電所ネットワーク 東京地域交流会	『東京都内市区町村との協働実施による地球温暖化対策事業に関する民間提案』の募集

◆ PR・普及啓発事業検討部会

(1) 研究テーマ

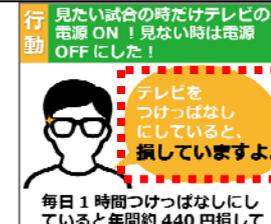
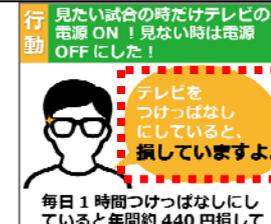
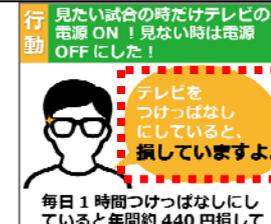
2019年度は、3テーマについての検討を進めました。各テーマおよび概要は下記のとおりです。

テーマ1：オリ・パラ エコ観戦チェック
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に向けた効果的な地球温暖化対策の普及啓発方法として、62 市区町村在住の東京オリ・パラ観戦者等に対してエコ観戦の普及啓発の方法を検討・実施、実施による効果を測定</li> <li>・普及啓発により、東京オリ・パラ期間中の CO<sub>2</sub> 排出の抑制に寄与</li> </ul>
テーマ2：東京を冷やせ！打ち水大作戦
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリ・パラを契機に、温暖化対策に取り組む 62 市区町村の姿勢や温暖化対策の意識啓発を都内外並びに海外に向けて発信することを目的に競技会場等で打ち水を実施することを検討</li> <li>・東京を訪れる人々に都内の自治体を知って頂く切っ掛けとするために、自治体のマスコットキャラクターを交えた打ち水を行うことで自治体 PR に寄与</li> </ul>
テーマ3：地球温暖化対策スタディツアー
<ul style="list-style-type: none"> <li>・62 市区町村の温暖化対策関連の取組を効果的に紹介・発信する手法について検討</li> <li>・行政だけでなく、企業・団体等との連携・協働によって実施する、普及啓発効果の高いスタディツアーモデルを組成</li> <li>・ツアー参加者に行政が取り組んでいる温暖化対策の先進的事例や参考となる取組事例を紹介することで、温暖化対策の取組を共有し、環境意識を醸成</li> </ul>

**テーマ1** オリ・パラ エコ観戦チェック

1) 実施概要

来年度実施予定の「オリ・パラ エコ観戦チェック」の実証実験として、RWC（ラグビーワールドカップ 2019 日本大会）でのエコ観戦チェックを実施しました。実証実験の概要は次のとおりです。

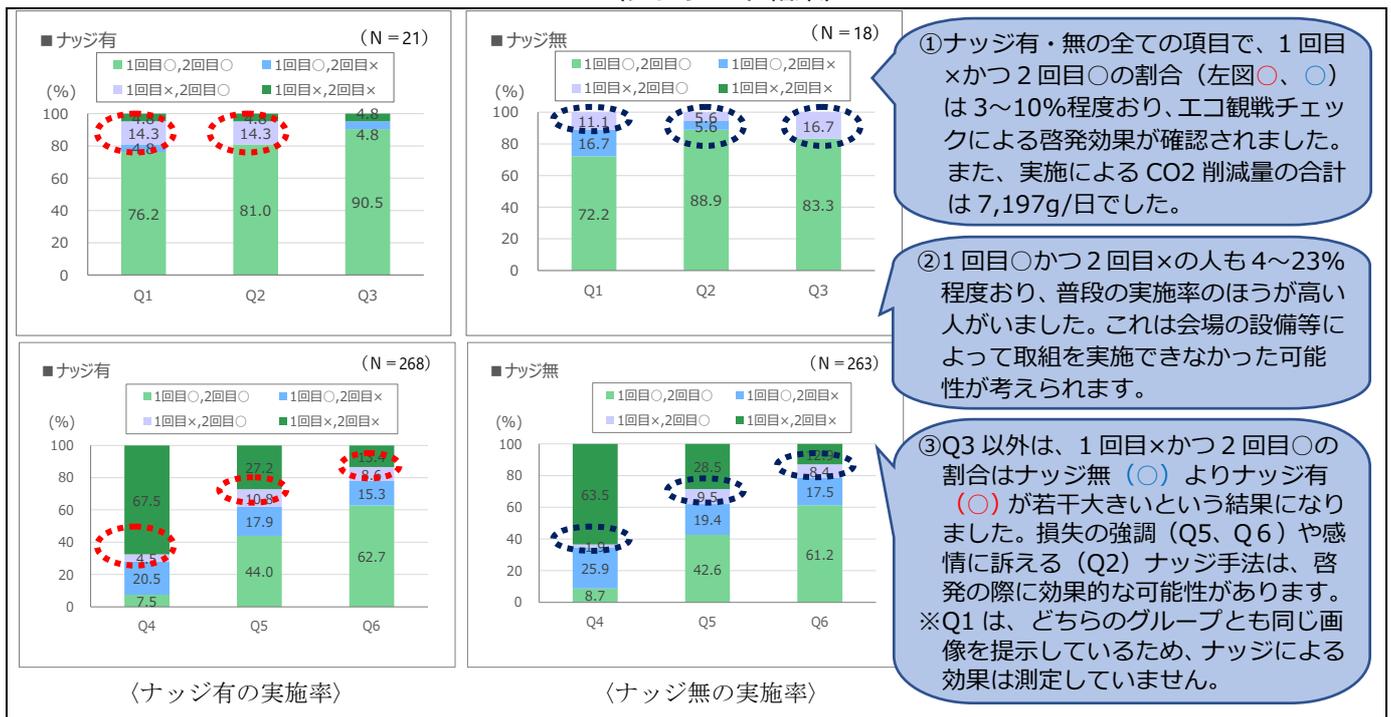
項目	内容												
実施内容	・1 度目のアンケートでエコ観戦に取り組めていなかった人が、2 度目のアンケートでエコ観戦に取り組んでいた場合に、エコ観戦チェックの効果とし、取組んだ項目による CO <sub>2</sub> 削減量を算出する。												
実施手法	① web アンケートを通して、RWC 観戦予定者の普段のスポーツ観戦時のエコ観戦チェック（スポーツ観戦時のエコな取組）の実施率を把握、RWC 観戦時に取組めるエコな取組の普及啓発を行う。普及啓発はナッジ有・無の 2 種類の画像を用意して、ナッジの効果を検証。 ② ①のアンケート回答者に対して、RWC の試合観戦時における、エコ観戦チェックの実施率を把握する。												
対象	・web アンケート会社のモニター登録者からランダムに抽出 ・都内在住の 18 歳以上の男女（10 月 18 日以降に RWC の試合を観戦予定の人）												
ナッジとは	・ナッジは経済的なインセンティブや強制的な働きかけではなく、行動科学の知見に基づく工夫や仕組みによって、人々がより望ましい行動を自発的に選択するよう誘導する政策手法として注目されている。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">購入した飲食物を残さず食べた</th> <th colspan="2">見たい試合の時だけテレビをつけて、見ない時は電源を消した</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <b>行動</b> 購入した飲食物を残さず食べた！              年間 CO<sub>2</sub>削減量 44g            飲食物を残さず食べることで CO<sub>2</sub>の削減ができます。         </td> <td> <b>感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】</b>  <b>もったいない！</b>            その食材、その料理、どれだけの想いで作られたのであろう...              CO<sub>2</sub>の削減にも貢献できます。         </td> <td> <b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！              年間 CO<sub>2</sub>削減量 7.8kg            年間節約額 約 440 円            試合を見ていない時はテレビを消すことで CO<sub>2</sub>の削減ができます。         </td> <td> <b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！    <b>テレビをつけっぱなしにしていると、損していますよ。</b>            毎日 1 時間つけっぱなしにしていると年間約 440 円損してるかも...            CO<sub>2</sub>の削減にも貢献できます。         </td> </tr> <tr> <td>通常の啓発画像</td> <td>感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】</td> <td>通常の啓発画像</td> <td>損失を強調した啓発画像【□がナッジ要素】</td> </tr> </tbody> </table>	購入した飲食物を残さず食べた		見たい試合の時だけテレビをつけて、見ない時は電源を消した		<b>行動</b> 購入した飲食物を残さず食べた！  年間 CO <sub>2</sub> 削減量 44g 飲食物を残さず食べることで CO <sub>2</sub> の削減ができます。	<b>感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】</b> <b>もったいない！</b> その食材、その料理、どれだけの想いで作られたのであろう...  CO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。	<b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！  年間 CO <sub>2</sub> 削減量 7.8kg 年間節約額 約 440 円 試合を見ていない時はテレビを消すことで CO <sub>2</sub> の削減ができます。	<b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！  <b>テレビをつけっぱなしにしていると、損していますよ。</b> 毎日 1 時間つけっぱなしにしていると年間約 440 円損してるかも... CO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。	通常の啓発画像	感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】	通常の啓発画像	損失を強調した啓発画像【□がナッジ要素】
購入した飲食物を残さず食べた		見たい試合の時だけテレビをつけて、見ない時は電源を消した											
<b>行動</b> 購入した飲食物を残さず食べた！  年間 CO <sub>2</sub> 削減量 44g 飲食物を残さず食べることで CO <sub>2</sub> の削減ができます。	<b>感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】</b> <b>もったいない！</b> その食材、その料理、どれだけの想いで作られたのであろう...  CO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。	<b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！  年間 CO <sub>2</sub> 削減量 7.8kg 年間節約額 約 440 円 試合を見ていない時はテレビを消すことで CO <sub>2</sub> の削減ができます。	<b>行動</b> 見たい試合の時だけテレビの電源 ON！見ない時は電源 OFF にした！  <b>テレビをつけっぱなしにしていると、損していますよ。</b> 毎日 1 時間つけっぱなしにしていると年間約 440 円損してるかも... CO <sub>2</sub> の削減にも貢献できます。										
通常の啓発画像	感情に訴えることで注意をひきつける【□がナッジ要素】	通常の啓発画像	損失を強調した啓発画像【□がナッジ要素】										

## 2) 結果

### 〈エコ観戦チェック項目〉

Q1 会場までの移動は公共交通機関（徒歩・自転車を含む）を利用する
Q2 購入した飲食物を残さず食べる
Q3 ごみは分別して捨てる
Q4 パブリックビューイング等、家以外の試合観戦ができる場所で観戦する
Q5 見たい競技のときだけテレビをつけて観戦して、テレビをつけっぱなしにしない
Q6 観戦する部屋以外は消灯する

### 〈アンケート結果〉



## テーマ2 東京を冷やせ！打ち水大作戦

### 1) 実施概要

企画案を元に、課題抽出および対応策の検討による企画の具体化をしました。

検討に際しては、行政と民間が協働で実施した打ち水イベント、民間主体で行った打ち水イベントの視察を行って知見を得るとともに、RWCにおける会場周辺を視察し、実施場所として不都合な場所/適地と思われる場所の把握を行いました。

これらの活動をとおり、次年度の打ち水イベントの実施場所を想定しました。

### 2) 結果

オリンピック開催期間中に、各競技会場までのラストワンマイル（最寄りの交通結節点の沿道等～競技会場）脇にある公共空地やホストタウンの公有地等で、マスコットキャラクターを交えて打ち水イベントを実施することを予定します。

実施場所については、競技会場でありホストタウンとなっている町田市（自転車競技ロードレースのコースであり、南アフリカ共和国・インドネシア共和国のホストタウン）、および、中野区（卓球の公式練習会場の予定）での実施を想定します。

### テーマ3 地球温暖化対策スタディツアー

#### 1) 実施概要

62 市区町村による地球温暖化対策の取組を紹介するスタディツアーの企画・検討を下記の活動を通して行いました。

- ・スタディツアーにおいて参加自治体が見せたい場所や見たい場所の検討、意見交換を実施。
- ・民間ツアー会社との協力によるスタディツアー企画に向けた意見交換を実施。
- ・参加自治体のスタディツアーテーマや視察候補とする施設について検討・意見交換を実施。
- ・民間ツアー会社と協力し、参加自治体におけるスタディツアー企画（案）の詳細検討を実施。

#### 2) 結果

検討の結果、参加自治体の取組・施設等を訪問する3つのスタディツアー案を企画しました。

##### 〈スタディツアー1の概要（案）〉

ツアー名	私たちの生活に欠かせない、水とエネルギーの循環について学ぼう
テーマ	水の循環、熱エネルギーの循環
訪問場所	①小平ふるさと村 ②ガスミュージアム ③ベタニヤ館 ④小平市ふれあい下水道館 ⑤小平グリーンロード ⑥こもれびの足湯
該当自治体	小平市
所要時間	4時間程度（移動に自転車を使用した場合）
ツアーコスト	1人当たり約1,000～2,000円（移動費、入館料、食事等）

##### 〈スタディツアー2の概要（案）〉

ツアー名	水の旅路を辿る！東京の水道技術と環境保全について学ぼう
テーマ	水の旅路（水の循環）、水処理技術
訪問場所	①東京都水道歴史館 ②環七地下の貯水池 ③境浄水場 ④狛江水辺の楽校 ⑤成瀬クリーンセンター
該当自治体	中野区・町田市・狛江市（他 文京区、武蔵野市、昭島市）
所要時間	7時間程度（移動に電車・バスを使用した場合）
ツアーコスト	1人当たり3,000円程度（移動費、入館料、食事等）

##### 〈スタディツアー3の概要（案）〉

ツアー名	日本が綺麗だと言われる理由を探る！ごみの行方探索の旅
テーマ	ごみ処理技術、熱再利用、ごみ減量
訪問場所	①かつしかエコライフプラザ ②新江東清掃工場 ③夢の島熱帯植物館 ④中央防波堤埋立処分場
該当自治体	葛飾区（他 江東区）
所要時間	7時間程度（移動に車を使用した場合）
ツアーコスト	1人当たり1,750円程度（移動費、入館料、食事等）

## ■実証事業

今年度の実証事業では、ナッジや環境心理学の最新の知見を用いた PR・普及啓発の効果を検討するため、2つのテストを行いました。

### ◆ 中野区環境イベントでのコミットメントに関する実証試験 (令和元年11月16日(土))

#### (1) 実施概要

- 中野区では、2009年度より、区民等の環境に配慮した行動を醸成することを目的に、事業紹介や省エネ活動への普及啓発イベントを開催しています。本イベントで、区の展示ブースにて省エネ行動に関するパネルを展示し、省エネ行動の普及啓発を行いました。
- 展示では、アンケート回答者の「これから」取組みたい行動にシールを貼ってもらい、今後の行動をコミットメントさせる工夫をしました。環境心理学の知見によると、コミットメントを行うことは行動を促すことにつながります。今回の場合、省エネ行動に対する行動全般の意識が高くなり、「これから」省エネ行動を実施するかという設問に対して、実施すると答える割合が高くなることが予想されました。
- パネルは以下の2種類を用意し、時間帯によって展示パネルを変えました。

コミットメント有パネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネルを見て、これから特に実践したい行動にシールを貼る(今後の行動にコミットメントする)</li> <li>シールを貼った後、アンケートに回答する。</li> </ul>
コミットメント無パネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネルを見て、アンケートに回答する</li> </ul>

- アンケート項目はパネルの項目と同じ省エネ行動とし、アンケートはコミットメントの有無に関わらず同じとしました。



回答率をあげるため、粗品を配布

シールが貼られているパネル

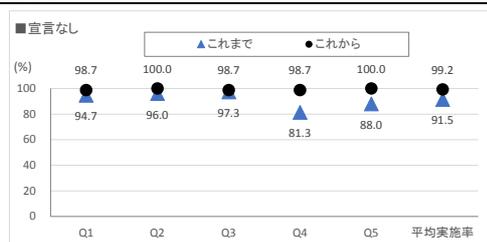
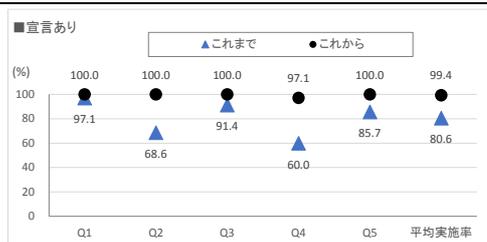


シールを貼って、これから取組みたい行動を宣言する

パネルの内容はシールを貼る箇所以外はコミットメント有・無で同じ

#### (2) 結果

##### 〈アンケート結果〉



- 全ての項目で「これまで」より「これから」の割合が高くなっており、宣言無の「これから」の実施率は全ての項目で95%以上、宣言有はQ4以外の項目で100%となっています。
- 宣言有の方が、「これまで」の平均実施率は低い一方で、「これから」の平均実施率が高くなっており、コミットメントの効果があったと考えられます。

##### 〈その他のコミットメントの効果〉

- コミットメント有の場合、自身の行動を正確に思い出そうとしている人がおり、コミットメント無のアンケートと比べると回答時間が多くかかっていました。
- アンケート回答者の中に、シールを貼ることにに対して、拒否反応を示す人はいませんでした。
- シールを貼るためにパネルを見る時間が長くなり、各項目にコメントする人が多くいました。
- 子どもはシールを貼ることを楽しんでおり、パネルだけを展示した場合に比べて展示に興味を持つ子がいました。粗品の配布終了後にシールを貼りたいという子もおり、人集めのきっかけになる可能性があります。

## ◆ 小金井市環境イベントでの選択のデフォルト化に関する実証試験(2019年11月23日(土))

本実証試験は、試験当日の天候が悪く、対象数が少ないため、対象を増やした場合に異なる検証結果となる可能性があります。

### (1) 実施概要

- ・小金井市では、環境について楽しく学べるイベントである「こがねい環境フォーラム」を毎年開催しています。本イベントで事業者が提供するドリンクのカップについて、選択肢の提示方法を変更することで、リユースカップと使い捨てカップのどちらが多く利用されるか検証を行いました。
- ・提示方法は、「人はあらかじめ決められた選択肢（デフォルト）を選ぶことが多い。」というナッジの知見を活用し、2種類の選択肢の提示を行いました。また、ヒアリングや調票より、容易なアンケート手法として、リユースカップを使ったアンケートを開発し、実施可能性について検証しました。

#### 【開発したアンケート手法】

アンケート手法	リユースカップの返却時、選択肢 A・B のどちらかにリユースカップを置き、アンケートに回答する。
設問	デポジットでなくてもリユースカップを『A: 返却する』『B: 返却しない』を問う

#### 【選択肢の提示のケース（下図）】

ケース 1	リユースカップをデフォルト*で使用する。
ケース 2	使い捨てカップをデフォルトで使用する。

※デフォルト：販売時に先に案内又は、購入者の指定がない場合は自動的に選択。どちらのケースでも購入者から指定があれば、指定されたカップを使用。



ケース 1 で使用したポップ



ケース 2 で使用したポップ



アンケートの選択肢  
カップを A、B どちらかにおくこ  
とで、アンケートに回答する

### (2) 結果

#### 〈リユースカップの販売結果〉

- ・どちらのケースにおいても、リユースカップの販売数が多くなりました。イベント当日は悪天候で、購入者はイベント関係者や環境に関心の高い層が中心となり、リユースカップを選ぶ人が多かったと考えられます。

#### 〈リユースカップの販売数〉

販売数	リユースカップ (杯)	使い捨てカップ (杯)	合計 (杯)
ケース 1 (リユースカップがデフォルト)	14	2	16
ケース 2 (使い捨てカップがデフォルト)	5	1	6
合計	19	3	22

#### 〈アンケート実施結果〉

- ・まとめて返却された場合を除いて、リユースカップの購入者全員にアンケートを行うことができ、リユースカップによるアンケート実施の可能性があることが分かりました。
- ・1人を除き、全員がデポジットでなくともリユースカップを『返却する』と回答しました。
- ・アンケート回答時、アンケートを実施していることや設問内容を説明する必要がありました。カップでのアンケートでは、アンケートを実施していることが分かるレイアウト、簡易な質問にすることが重要です。

#### 〈アンケート集計〉

	A (返却する)	B (返却しない)
ケース 1 (リユースカップがデフォルト)	7	0
ケース 2 (使い捨てカップがデフォルト)	1	1

## ■2019 年度研究会

日程	実施項目	概要
6月	第1回 研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本年度の研究会の進め方</li> <li>●ゲストスピーカーによる講演 環境省 地球温暖化対策課 岸 課長補佐 【テーマ】気候変動対策に関する最新動向</li> <li>●検討部会の設置の決定・部会での検討概要の説明</li> </ul>
8月	第1回 市民協働型 GHG 削減策検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●提案事業者による発表</li> <li>●意見交換（テーマ2）</li> </ul>
	第1回 PR・普及啓発事業検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討テーマごとの検討概要の説明・意見交換</li> </ul>
10月	第2回 市民協働型 GHG 削減策検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●提案事業者による発表</li> <li>●意見交換（テーマ1）</li> </ul>
	第2回 PR・普及啓発事業検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討テーマごとの進捗報告等</li> <li>●PR・普及啓発のテスト事業の実施概要の報告</li> </ul>
	第2回 研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゲストスピーカーによる講演 筑波大学 システム情報系 社会工学域 甲斐田 准教授 【テーマ】環境心理学にもとづく温暖化対策の立案</li> <li>●検討部会の中間報告</li> <li>●PR・普及啓発事業の実施に関する報告</li> </ul>
11月	PR・普及啓発事業1	●コミットメントに関する実証実験
	PR・普及啓発事業2	●選択のデフォルト化に関する実証実験
1月	第3回 PR・普及啓発事業検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●検討テーマごとの進捗報告等</li> <li>●PR・普及啓発のテスト事業の結果報告</li> </ul>
	第3回 市民協働型 GHG 削減策検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ1の検討</li> <li>●テーマ1の結果の整理</li> <li>●テーマ1の次年度の方向性</li> </ul>
2月	サウンディング調査の実施	●サウンディング調査の実施（3月上旬まで）
3月 <sup>*1</sup>	第4回 PR・普及啓発事業検討部会	●テーマ3に関連したデモツアーの実施
	第3回 研究会	●本年度検討部会の成果報告
	第4回 市民協働型 GHG 削減策検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ2の結果報告</li> <li>●テーマ2の次年度の方向性の整理</li> </ul>

※1 第4回 PR・普及啓発検討部会、第4回市民協働型 GHG 削減策検討部会および第3回研究会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、メールでの資料報告とした。

## ■2019 年度参加自治体

中央区、目黒区、中野区、板橋区、葛飾区、武蔵野市、三鷹市、調布市、町田市、小平市、福生市、狛江市、多摩市、稲城市（計 14自治体）

### 市民協働型温暖化対策実行計画推進研究 報告書（概要版）

オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

主催 特別区長会・東京都市長会・東京都町村会

企画運営 （公財）特別区協議会

（公財）東京市町村自治調査会

発行 2020（令和2年）年3月

本書は、株式会社建設技術研究所に委託し、オール東京62市区町村共同事業として作成しました。